

小学校国語科 高学年「書くこと」「読むこと」

「目的や意図に応じて、書いて伝えよう」
～自分の考えを表現するために～

＊ツール・機能：文書作成ソフト プレゼンテーションソフト
（学習支援ツール ファイル共有機能※）

＊ 分 類 ：思考活動・協働活動

※ 学習支援ツール、ファイル共有機能は様々な種類があります。
各学校の状況に応じて選択し、御活用ください。



ICT活用のねらい

「書くこと」や「読むこと」における資質・能力を身に付けさせるために効果的な場面で活用します



「書く」ことへの関心を高める

1人1台端末を活用することで…

- ・目的や意図に応じて各材料を短時間で、手軽に集めることができます。
- ・文章全体の構成や展開を考えるときに、レイアウトを検討することでよりよい表現につなげることができます。
- ・自分の考えを伝えるために、引用したり図表やグラフなどを挿入したりするなど、書き表し方の工夫が容易になります。
- ・書いたものを読み返した後、遂行を容易にすることができます。



「書くこと」が得意な児童の表現の幅を広げるだけでなく、紙や鉛筆を使った「書くこと」に苦手意識をもつ児童も取り組みやすいなど、個別最適な学びを実現することができます！

★児童の実態や作品の特徴によって、文書作成ソフトを用いるか、プレゼンテーションソフトを用いるか、適したものを選ぶことが大切です。

活用例Ⅰ 俳句を作ろう

〔5・6年〕感じたことや想像したことを基に「書くこと」

①材料を集める

・インターネットを活用して、俳句で表したい言葉を集めたり、季語を調べたりします。



集めた言葉や調べた季語は、学習支援ツールなどを活用して、マッピングしたり分類したりすることもできます。

②俳句を作る

・集めた言葉や調べた季語を、文書作成ソフトやプレゼンテーションツールを活用して「五・七・五」に合わせて組み立てます。



どうすると感動が伝わるかを考えるのがポイントじゃ・・・

③表現を工夫する

・言葉の調子やリズムを工夫します。
・例えを使ったり、漢字、平仮名、片仮名など表記の仕方を考えたりしながら、よりよい表現について検討します。



文書作成ソフトやプレゼンテーションツールを活用すると、言葉の入れ替えの操作や言葉の表記の仕方などの検討が簡単かつスムーズに行うことができます。

表現を工夫する場面では、1人1台端末を活用してよりよい表現を吟味するために試行錯誤する操作は簡単で便利ですが、声に出して言葉の調子や響き、リズムを感じながら試行錯誤することを大切にします。端末上での試行錯誤の操作に終始することがないよう、留意する必要があります。

活用例Ⅰ 俳句を作ろう

〔5・6年〕感じたことや想像したことを基に「書くこと」

④鑑賞会を行う

- ・完成した俳句の鑑賞会を行い、表現を工夫したところについて話したり、感想を伝えたりします。



完成した作品の掲示に加え、電子黒板やファイル共有機能を活用した鑑賞会を行うことができます。また、他クラスや他学年、家庭などと共有することで、学習の振り返りに生かすこともできます。

1人1台端末を活用すると、作品の形式を揃えることが可能になります。俳句で表したいイメージをよりよく表現するために、字体、背景、画像等を工夫することができるので、「書くこと」が得意な児童も苦手な児童にも、個別最適な学びが期待できます。

※情報の取り扱い方、著作権、情報モラルに十分注意し、画像の検索、貼り付けを行う必要があります。

活用例2 平和新聞を作ろう

〔6年〕「総合的な学習の時間と関連させた新聞作り「書くこと」

①総合的な学習の時間で調べたことを整理する

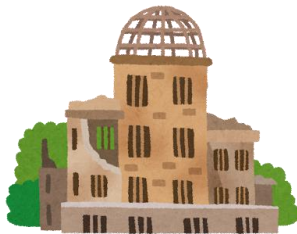
- ・テーマに沿って調べたことを、学習支援ツールなどを活用して、マッピングしたり分類したりして整理します。

②レイアウトを決める

- ・ファイル共有機能を活用してフォーマットを配付し、レイアウトを決めます。

③記事を書く

- ・見出し、資料、写真などを基に、記事を書きます。



文書作成ソフトやプレゼンテーションツールを活用したフォーマットでは、レイアウトの構成を試行錯誤する操作が簡単かつスムーズに行うことができます。



文書作成ソフトやプレゼンテーションツールを活用するため、文字の大きさ、文章量などが調整しやすいため、文や文章を整えることが容易になります。

記事を書く場面では、使用する資料や図表、イラスト、写真などについて、引用する目的を明確にし、引用するものと自分の考えとの関係などを明確に示すことができるような指導が必要です。また、引用に当たっては、出典を必ず明記することも伝えます。引用する量が適切であるかどうかについても教師が留意するポイントとなります。

活用例2 平和新聞を作ろう

〔6年〕「総合的な学習の時間と関連させた新聞作り「書くこと」

④新聞を読み合う

- ・完成した新聞を、書き手が伝えたいことを考えながら読み合い、感想を伝えます。



完成した新聞の配付や掲示に加え、電子黒板やファイル共有機能を活用して読み合うことができます。また、他クラスや他学年、家庭などと共有することで、学習の振り返りに生かすこともできます。



読みたくなる
見出しだね!

写真があると、文章の
内容が分かりやすいね!



1人1台端末を活用して「新聞」というフォーマットで完成することで、「書くこと」が苦手な児童も取り組みやすく、達成感を味わわせることができます。また、児童自身の新聞と友達の新聞と見比べ、共通点や相違点を見付けることで、「書くこと」に関する事項を身に付けることができます。

※情報の取り扱い方、著作権、情報モラルに十分注意し、画像の検索、貼り付けを行う必要があります。

活用例3 作品紹介のリーフレットを作ろう

〔6年〕「読むこと」ー宮沢賢治作「やまなし」を教材にー

①作品の世界を捉える

- ・「やまなし」を読み、作品の世界を想像する。
- ・作者が作品に込めた思いや考えについて、自分の考えをまとめる。



表現の技法に着目してほしいなあ・・・

②自分の考えをで整理する

- ・「作者について」「あらすじ」「作品や題名に込められた思い」「お薦めの表現」の4つの視点で自分の考えを整理する。



4つの視点で自分の考えを整理する際に、学習支援ツールなどを活用すると、マッピングしたり分類したりすることもできます。

③レイアウトを決め、リーフレットを作る

- ・ファイル共有機能を活用してフォーマットを配付し、レイアウトを決めます。



文書作成ソフトやプレゼンテーションツールを活用したフォーマットでは、レイアウトの構成を試行錯誤する操作が簡単かつスムーズに行うことができます。

「読むこと」の言語活動を通して、1人1台端末を活用して「作品紹介のリーフレットを作ろう」というゴールを設定することで、内容を読み深める学習を展開します。その際、表現の効果に気付いたり考えたりするために、視点や目的を示すことが大切です。

活用例3 作品紹介のリーフレットを作ろう

〔6年〕「読むこと」ー宮沢賢治作「やまなし」を教材にー

④リーフレットを読み合う

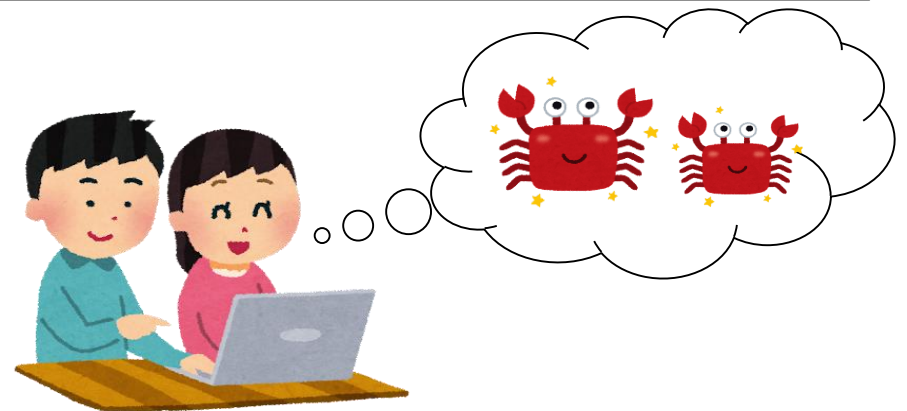
- ・完成したリーフレットの内容について読み合い、感想を交流します。

【作者について】		【あらすじ】	
作者	宮沢賢治は、たくさんの災害を経験したことでみんなが力を合わせて、人間も動物も植物もたがい心を通い合うような世界にしたかった。だから賢治は体が弱っていても来客が来た自分を犠牲にしてまで1時間以上も話をする。賢治は命あるすべてに対して愛をもっていた。	二匹のカニの兄弟が川底で話している。上ではクラムボンが笑っていたが、魚が通ると死んでしまう。しかし、魚が下流の方に行くときクラムボンは笑う。魚は突然「鉄砲玉のようなもの」に食べられる。兄弟がかわせみを恐れる中、上流からは、白い梅のはなが流れてきて水面をおおっていた。	カニの子どもたちが外でどちらのあわが大きいかわい合っていた。お父さんがやってきた。するとやまなしが水の中を流れていった。三匹はやまなしの横になり、木の枝に引っかかった。やまなしはよく熟していい匂いだ。おいしいお酒ができるのを待つように親子のかには帰った。
【作品や題名に込められた思い】		【おすすめの表現】	
作品	「やまなし」の題名には、やまなしは生き物すべてに生きる希望を与えてくれる。だから命ある生き物すべてが大切だという気持ちをもってほしいと思っている。そのため賢治は「イーワテ」という地名を作り賢治が思いがく理想の国をつくっていた。それを読者に伝えていった。	「青光りのまるでギラギラする鉄砲だまのようなものがいきなり飛び込んできました。」この表現は、どれだけかわせみがすばやく飛び込んできたのかがよくわかる。とても暗い表現のしかただなと思った。	「月光のじがもかもか集まりました。」もかもかというのがあまり聞いたことがないので、面白いなと思った。5月とは逆にとても明るい表現のしかただなと思った。
イラスト		イラスト	

【作者について】		【物語のあらすじ】	
作者	宮沢賢治は1896年8月27日生まれで、賢治は人が苦しむ姿を見たくない。自分が犠牲になっても相手のために尽くすという考えをもっていました。他にも、動物や人間、植物も平等であるという考えを大切にしていました。	3匹のかにが海底で話をしている。クラムボンが笑っていたが、魚が通ると死んでしまう。しかし、魚が下流の方に行くときクラムボンは笑い始める。魚は突然「鉄砲玉のようなもの」に食べられてしまい、カニの兄弟はぶるぶると震える。兄弟がかわせみを恐れる中、上流からは白い梅の花が流れてきて水面をおおっていた。	カニの子どもたちはもうほとんど大きくなり、あわの大きさに競い合っている。その時、黒い丸い大きなものが天井から落ちてきた。やまなしだった。やまなしはいい匂いをふりまき、もう少し待てば美味しいお酒ができる喜び、カニたちは住処へ帰っていった。
イラスト		イラスト	
【作品や題名に込められた思い】		【おすすめの表現】	
賢治の自分の命を犠牲にして命をつなげるという気持ちがカニたちに命を繋ぐため自分が犠牲になって命を繋いだやまなしと似ていて読者にその気持ちを伝えたかったのだと思います。		5月のおすすめの表現は「コンパスのように黒くのがっている」です。理由は「かわせみのとがったくちばし」と書かずに、読者に「身近であふないもの」を想像させる所に感心したからです。	12月のおすすめの表現は「その黒い3つのかげぼうしが合わさって6つ踊るようにして・・・」です。理由はやまなしを追いかけ来そうにしているカニたちを表していると思ったからです。
イラスト		イラスト	

完成したリーフレットの掲示に加え、電子黒板やファイル共有機能を活用して読み合うことができます。また、他クラスや他学年、家庭などと共有することで、学習の振り返りに生かすこともできます。

「青光りのまるでギラギラする鉄砲だまのようなものがいきなり飛び込んできました。」この表現は、どれだけかわせみがすばやく飛び込んできたのかがよくわかる。とても暗い表現のしかただなと思った。



4つの視点を基に、1人1台端末を活用して「リーフレット」というフォーマットで作品を紹介する活動は、多様な視点で作品を捉えることができるだけでなく、自分の考えとの共通点や相違点を整理しながら読み深めることができます。

※情報の取り扱い方、著作権、情報モラルに十分注意し、画像の検索、貼り付けを行う必要があります。